

# 大門通り界隈一束

続旧聞日本橋・その一

長谷川時雨

青空文庫



あたしの古郷ふるさとのおとめといえは、江戸の面影と、香かを、いくらか残した時代の、どこか齒ぎれのよさをとどめた、雨上りの、杜かきつばた若わかのような下町少女おとめで、初夏になると、なんとなく思出がなつかしい。

土つち一升、金かね一升の日本橋あたりで生れたものは、さぞ自然に恵まれまいと思われもしようが、全くあたしたちは生花きばなの一片ひとひらも愛した。現いま今いまのように、ふんだんに花の店がない時分だから、一枝の花の愛いとしみかたも格別だった。紅梅が咲けば折って前髪に挿し、お正月の松飾りの、小さい松ぼっくりさえ、松の葉にさして根がけにした。山吹の真白なじくも押出して、いちようがえしへ

かけた。五月の節句には菖蒲しやうぶの葉を前髪に結んだり、矢羽根やばねに切つたのを簪かんざしにさしたものだつた。

新藁しんわらは、いきな女ひとの投島田なげしまだばかりに売れるのではなく、素しろうと人でも洗い髪を束ねたりしてよく売れた。燕つばめの飛ぶ小雨の日に、

「新藁、しんわら」と、はだしの男が臍すねに細かい泥を跳はねあげて、菅すが笠がさか、手ぬぐいかぶりで、駄足でで、青い早苗を一束にぎつて、売り声を残していった。

水玉という草に水をうつて、涼しくかけたものだが、みんな一いつつとき時のもので、赤くひからびるまではかけていない。直じきにかけかえる手数はいとわなかつた。一たい、平日ふだんから油染じんだ髪をきらつていたから、菅糸すがいとだつて、葛くず引ひきだつて、金紗きんしゃ（元結もつとい）ぐ

らいな長さの、金元結の柔らかい、縞よりのよい細いようなのを、二、三十本揃えたもの。芝居の傾城けいせいの鬢かつらにかけてあるのと同じ）だつて、プツンと断きつて、一ぺんかけたただけだつた。

深窓しんそうな育ちでも、どこか女伊達だてめいた氣風をもつて、おそろしく仁義礼智の教えを守つて——姿の薄化粧のように、魂も洗おうとした。この二行ばかりの文章は、文飾のようにもとられようが、濃かれ薄かれ、そんな氣持ちはたしかにあつたのだ。人と、その性質は別としても、その地方色としては——

古い日記をくりかえして見ると、父が話してくれたことが書いてあるので、此処ここへ抜いて見よう。

——父の晩酌のとき、甥おいの仁坊まさぼうのおまつりの半纏はんてんのことから、山王様さんのうさまのお祭りのはなしが出る。仁まさしの両親とも日本橋生れで、亡なくなつた母親は山王様の氏子うじこ、此家こちらは神田の明神様の氏子、どつちにしても御祭礼おまつりには巾はばのきく氏子だというと、魚河岸から両国きわの際までは山王様の氏子だったのが、御維新後に、日本橋の川からこつちだけが、神田明神の氏子になったのだと、老父ちちが教えてくれた。

あたしたちは神田明神へお宮参りをしましたが、お父さんは山王様へお宮参りにいったのですかときくと、そうだといわれる。

それからそれへと古いはなしが出る。以下は老父ちちの昔語り——  
げんやだな  
玄治店くによしにいた国芳とよくにが、豊国と合作で、大黒と恵比寿えびすが角す

力をとつているところを書いてくれたが、六歳か七歳だったので、何時の間になくなってしまった。画会なぞに、広重も来たのを覚えている。二朱もつてゆくと酒と飯が出たものだった。

国芳の家は、間口が二間、奥行五間ぐらいのせまい家で、五間の奥行のうち、前の方がすこしばかり庭になっていた。外から見るところへ、弟子が机にむかっついていて、国芳は表面に坐つているのが癖だった。豊国の次ぐらいな人だったけれど、そんな暮しかただった。その時分四十位の中柄ちゅうがらの男で勢いの好い、職人はだで、平日どてらを着ていた。おかみさんが、弟子のそばで裁縫ごとをしていたものだ。武者絵むしやえの元祖といつてもいい人で、よく両国の万八まんぱち——亀清楼かめせいのあるところ——に画会があると、連れて

いつてくれたものだ。

国芳の家の二、三軒さきに、鳥居清満とりいきよみつが住んでいた。

大坂町の雷師匠かみなりは、冬でも表を明つぱなし、こまよせから、わざと見えるようにしてある。上り口あがの板敷のところこに、いけない児童こを空俵に入れたり、火のついた線香をもたせたりして、自分の傍には弓の折をひきよせておいて、がみがみ大声で唝鳴りどなちらしている。空俵へ入れるのは、これから河へ流してしまうというのだ。他のおとなしい児童こたちがふるえながら詫すると、それをしおに俵から出してやる。見えすいた広告法だが、厳やかましい師匠にやらなければ、いけないと思つている、無学町人の親たちには、それが大層評判がよかつた。



国芳の家のそばにも手習師匠があつた。私が七歳ななつであつたころに、四十位な年ねんばい配はいで、小笠原の浪人かがみぎようのすけ加賀美暁之助という人だつた。この人のほうは立派な人物で、大橋流の書も佳いいし、絵は木こ挽町びぎの狩野かのうの高弟で、一いっせん僊せんといつて、本丸炎上の時は、將軍の居間の画を描いたりしたほど出来たし、漢学も出来る、手をとつて教えてもらった。撃劍もおしえた。色は黒かつたが人品の好い人で、御家内ごかないも武家の出だから品のある女ひとだつた。

三馬さんばに逢あつたことがある。そうさ、五十四、五に見えた。猿のしるしのある家で、化粧水めかけを売つていたつけ。倉の二階住で、じんきよやみのくせに妾めかけがあつた。子供心にも、いやな爺じじいだと思つ

たよ。

歌うたがわてるくに川輝国は、宅うちのすぐ前にいたのさ。うまや新道——油町

と小伝馬町の両方の裏通り、馬屋新道とは、小伝馬町の牢屋ろうやから、引廻しの出るときの御用を勤めるといふ、特別の役をもっている荷馬の宿があつたから——の小伝馬町側に住んでいた。くさぞうし双紙の、合ごうかん巻かきでは、江戸で第一の人だつたけれど、貧乏も貧乏で、しまいは肺病で死んだ。やっぱり七歳ななつぐらいから絵をおしえてくれた。その時分三十五、六だつたらう。豊国の弟子だつたら、豊国の描いたものや、古い絵だの古本だの沢山あつた。種たねひ彦こがよこした下絵の草稿もどつきりあつた。私は二六時しじゅう中見ても子供だからそんなに大切にしなかつたし、おかみさんのお

もよというのは、へつついがし竈河岸の竈屋の娘で、おしやべりでしようの  
なかつた女だから、輝国が死んでから、そういうものはどうなつ  
てしまったかわからなかつた。

すまい住居は入口が格子で、すこしばかり土間があつて、二間に台所  
だけ、家賃は（今の金で）三十銭位だとおぼえている。それでも  
お酒は大好きで、たべものはてんやものばかりとつていた。貧乏  
でもそういうところはおご驕つていた。芝の泉せんいち市だの、若狭屋わかさやだの  
という絵双紙屋から頼みにきても、容易なこつては描いてやらな  
かつた。その時分、定さんという人がよくやと傭われてきたものだ。  
輝国が絵——人物や背景を描くと、その人は、軒だとか窓だとか、  
縁側だとか、ふすま襖とかいったものの、模様や線をひきにくる。腕は

その当時いい男だといわれていたのに、弁当も自分持ちで、定じよう木ぎも筆も持参で来て、ひどい机だけかりて仕事をして、それで一日がたつた天保銭一枚（当時の百文・明治廿年代まで八厘）。今の人がきくと嘘うそのようだろう。

じゆかくてい 寿鶴亭という八人芸（時雨しぐれ云、拙著『旧聞日本橋』の中には、

この寿鶴の名が思いだせないで〇〇齋さいと書いたのと同じ人）の上じ手てなのがすぐ近所にいた。娘に、油町の辻つじ新しんという大おお店だの権ごん助すけを養子にして春米屋つきごめやをさせ、自分たちは二階住居をしてい

た。賑やかな人で、自分の家の二階で八人芸をやっていると、まったく瞞だまされるほど、大勢おおぜい寄よっているようにきこえた。かみさんは新宿あたりの上あがりもの（遊女の）で、強したた者かもだった。孫娘

のおつるといふのを手塩にかけて育てていたが、それが後に妾めかけに  
 いつて大層出世をしたとかきいた。たしか、大鳥圭介おおとりけいすけさんの  
 ところへだときいた。

辻新といえは、あすこの家の頭うちかしら——出入りの鳶職とびしよく——が、  
 芝金しばぎんの直弟子じきでしで、哥沢うたざわの名とりだった。めつかちの、その男  
 のつくつたのが「水の音」といふ唄だ。自分の名の音がよみこん  
 である——

今日はこの位にしておこうといつて、父上は枕まくらにつかれる。こ  
 ういう事は、いつもきき流しにしてしまつて、あとで記録してお  
 けばよかつたと、いつも後悔するから、今夜こそ書いておこう。  
 と止めてある。父は天保十三年の生れ、七歳ななつの時といえは嘉永元

年だ。外国船がしきりに渡来して、世の中は刻々にむずかしくな  
つていたころだと思う。

# 青空文庫情報

底本：「旧聞日本橋」岩波文庫、岩波書店

1983（昭和58）年8月16日第1刷発行

2000（平成12）年8月17日第6刷発行

底本の親本：「桃」中央公論社

1939（昭和14）年刊行

入力：門田裕志

校正：松永正敏

2003年7月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。



# 大門通り界限一束

続旧聞日本橋・その一

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

著者 長谷川時雨

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>